

各 位

上場会社名	株式会社 ニックス
代表者	代表取締役社長 青木 伸一
(コード番号)	4243)
問合せ先責任者	取締役管理本部長 先本 孝志
(TEL)	045-221-2001)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年11月20日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年9月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年10月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,100	30	15	10	4.35
今回発表予想(B)	1,470	△265	△295	△295	△128.34
増減額(B-A)	△630	△295	△310	△305	――
増減率(%)	△30.0	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年9月期第2四半期)	2,329	84	81	41	18.57

平成21年9月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,400	120	95	70	30.45
今回発表予想(B)	3,150	△370	△415	△420	△182.73
増減額(B-A)	△1,250	△490	△510	△490	――
増減率(%)	△28.4	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期)	4,650	154	147	81	35.83

平成21年9月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年10月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,000	15	0	0	0.00
今回発表予想(B)	1,400	△260	△290	△290	△126.17
増減額(B-A)	△600	△275	△290	△290	――
増減率(%)	△30.0	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年9月期第2四半期)	2,244	78	62	25	11.49

平成21年9月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,200	100	75	45	19.57
今回発表予想(B)	3,000	△375	△420	△420	△182.73
増減額(B-A)	△1,200	△475	△495	△465	――
増減率(%)	△28.6	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期)	4,426	103	85	31	13.86

修正の理由

第1四半期連結会計期間における世界経済は、前年に米国で発生したサブプライムローン問題に端を発した世界的な景気低迷が継続し、その震源地である米国においては金融機関の破綻、大手自動車メーカーの巨額損失など状況は深刻さを増し、その影響は全世界へ

と波及しております。このような中、当社グループの主要販売先を取り巻く環境も期初の予想に比べ大変厳しいものとなっております。

当社グループの主要販売先である事務機器業界・自動車業界は上述した景気悪化に伴う内需の不振に加えて、海外市況の低迷により輸出が減速し、大幅な減産・在庫削減調整を余儀なくされました。これにより当社グループの事務機器業界向け工業用プラスチック・ファスナー、自動車業界向けプラスチック精密部品の売上は販売先の度重なる減産・在庫調整と二重の売上減少要因の影響を受ける形となり、予想を大きく下回ることとなりました。

生産設備業界においても設備投資意欲の低下は深刻であり、生産設備治具関連製品の売上は当初の計画を大幅に下回る推移となっております。

第2四半期以降につきましても、住宅設備業界向けの「金属のプラスチック化製品」であるNIXAM配管継手などは新規テーマの立ち上がりを含め堅調に推移すると予想しますが、景気低迷が長期化した場合の影響は懸念されます。また第1四半期の状況を鑑みると事務機器業界・自動車業界の大手顧客の減産・在庫調整、円高基調などは長期化あるいは限定的な回復に止まるなど厳しい経済環境の継続が予想され、景気先行きに対しては慎重な見方をせざるを得ない状況にあります。

利益面では売上高の大幅な減少の影響に加え、当初1米ドル＝95～100円を想定した対米ドルレートが第2四半期において90円を割り込むなど予想を超える円高の進行による為替差損の発生、中東情勢不安定化により原油価格の低下に歯止めがかかりプラスチック原料価格が高止まりするなど売上総利益率の悪化要因が重なり、人件費、販売費及び一般管理費ほかの見直し削減に努めるものの大幅な減益となる見込であります。なお、第2四半期以降の為替レートは1米ドル＝90円を想定しております。

以上の状況を踏まえまして、連結・個別ともに前回発表の業績予想を修正いたします。

(注)上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想と異なる結果となる可能性があります。

以上